

ワークショップ「アブレーション（ラジオ波・マイクロ波治療）の合併症と対策」

司会：椎名秀一朗 先生（順天堂大学大学院医学研究科画像診断・治療学教授）

土谷 薫 先生（武蔵野赤十字病院消化器科）

【司会の言葉】

アブレーションは一般には低侵襲で安全な治療であるが、多数例を治療すれば合併症は不可避である。高齢者や肝機能低下例で選択されることも多く、合併症が起こると重篤化することもある。アブレーションといっても、ラジオ波治療とマイクロ波治療とでは Applicator の直径や先端の切れ、シャフトのしなりや摩擦も異なる。さらに必要な Applicator 数も 1 本だけのものもあれば複数本のものもある。また、施設により設備（超音波機器、穿刺用プローブ、治療用ベッド、fusion imaging や造影超音波がスムーズに使用できるか、等）、術者の技術・経験、スタッフの練度も異なる。さらに適応の広さと合併症の回避は相反し、病変の大きさや数、存在部位、根治性をどこまで追求するか、肝機能や全身状態等によっても治療成績や合併症の頻度に差異を生ずる。今後は薬物療法の進歩によりアブレーションとの組み合わせの検討も必要と思われる。複雑な要因が絡む問題ではあるが、適応を拡大し合併症を減少させるため如何なる工夫をしているか、合併症を生じた際の対策はどうしているか、等を発表していただきたい。明日からのアブレーションに役立つセッションとなるよう期待している。